

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2022年 第39週（9月26日～10月2日）

今週のコメント

～手足口病・ヘルパンギーナ～ 手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「手足口病・ヘルパンギーナ 再び増加」

第39週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,195例であり、前週比4.8%増であった。定点あたり報告数の第1位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、RSウイルス感染症、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.08、1.80、0.83、0.55、0.36である。

手足口病は前週比10%増の407例で、三島4.06、南河内3.06、大阪市北部2.79、大阪市西部2.70、大阪市南部2.50であった。

感染性胃腸炎は4%増の353例で、中河内3.40、南河内3.13、大阪市南部2.11である。

RSウイルス感染症は20%減の162例で、南河内2.25、堺市1.63、泉州0.89であった。

ヘルパンギーナは27%増の107例で、三島1.35、大阪市西部0.80、北河内0.76である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は9%増の71例で、大阪市南部1.61、中河内0.60、泉州0.53であった。

インフルエンザは63%減の3例で、定点あたり報告数は0.01である。

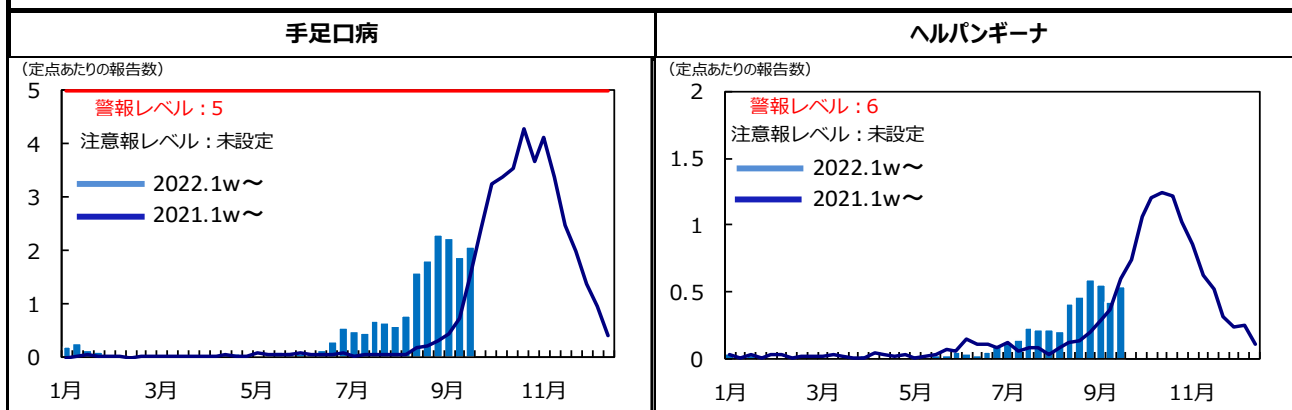


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第39週9月26日～10月2日）

第39週の順位	第38週の順位	感染症	2022年 第39週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2021年 第39週の 定点あたり 報告数	2022年第39週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	手足口病	2.08	10%増	1.54	1歳_36%
2	2	感染性胃腸炎	1.80	4%増	2.40	1歳_16%
3	3	RSウイルス感染症	0.83	20%減	0.25	1歳未満_30%
4	4	ヘルパンギーナ	0.55	27%増	0.60	1歳_33%
5	5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.36	9%増	0.41	8歳_17%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.01	63%減	0.00	1歳, 5歳, 9歳_33%

突発性発しんについて、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2022/23年シーズンのインフルエンザ集計は第36週から開始しました。

第39週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～ 基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

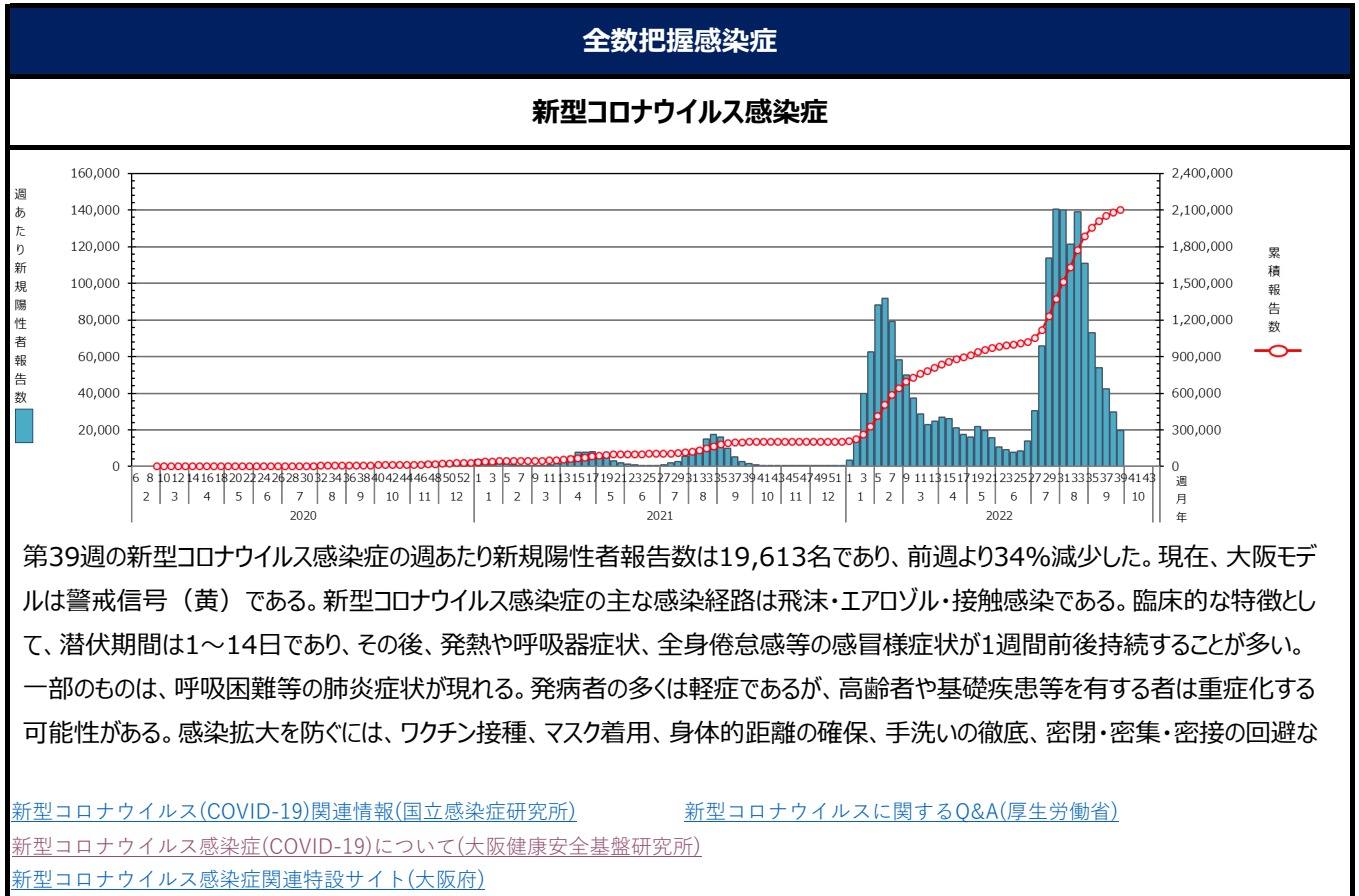


表 2. 大阪府全数報告数（2022年 第39週9月26日～10月2日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告 数	豊 能	三 島	北 河 内	中 河 内	南 河 内	堺 市	泉 州	大 阪 市	府 内 累 積 報 告 数
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	5		1	1	1				2	146
4 類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	5		1	1	1	1			1	85
5 類感染症	カルバペナム耐性腸内細菌科細菌感染症	3	1		1	1					106
	後天性免疫不全症候群	2								2	72
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1							1		9
	侵襲性肺炎球菌感染症	1								1	69
	梅毒	18	2	1		2				13	1268
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	19,613	2020年1月以降累計 2,100,780								
結核 (2022年8月分)	結核 新登録患者数：58名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 17名) (府内累積報告数 642名、内 肺・喀痰塗抹陽性 232名)										

(2022年10月4日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。